

第2回生駒市総合計画審議会（第三部会）会議録

開催日時 令和3年7月12日（月） 13:30～16:00

開催場所 生駒市役所 401・402会議室

出席者

（委員）高取部会長、浅間委員、藤尾委員、村上委員

（事務局）増田市長公室長、岡村企画政策課長、片山企画政策課計画係長、竹田企画政策課係員

（担当課）松田こども課長、角井子育て支援総合センター所長、山本教育総務課長、前田教育指導課長、清水生涯学習課長、井川生涯学習課課長補佐、西野図書館長、西スポーツ振興課長

欠席者 なし

議事内容

(1)各小分野の検証

(2)その他

【事務局】（開会宣告、配布資料確認）

以下、発言要旨

No. 212 子ども・子育て支援

【浅間委員】 「保育」分野の市民実感度38.2%の根拠がよく分からない。

【事務局】 昨年度実施した調査で、5年後のまちが実現していると思うかどうか尋ねており、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計した割合になっている。5年後のまちの表現が複文になっていたり、回答者に子どもがいない家庭や世代も含まれていたりすることから、回答しづらくなっている部分はあると思う。

【浅間委員】 市民実感度は定性的な内容で、個人差もあるので気になる。定量的な数値目標が必要なのではないか。

【事務局】 定性的なものとして「5年後のまち」があり、定量的なものは「指標」

になる。補助指標の設定は検討したい。

【高取部会長】 市民実感度は解釈の仕方が難しいが、市としてどう捉えているのか。

【こども課】 働き方や家庭状況が多様化しているなか、保護者が求めることも多岐に渡っている。例えば、子どもを幼稚園に通わせながらも働きたい人は、長く預かってほしいと思っている。パーセントで把握するのは難しいが、子ども子育て支援事業計画を策定する際にニーズ調査をしているので、その結果を踏まえてどこを目指すのかは考えている。

【事務局】 市民実感度は、本当は目標値を定めるのがいいのかもしれないが、経年変化を見ていくために実施している。

【浅間委員】 アンケート調査は毎回対象者が変わるが、モニター調査で追えばある程度正確な数字が出るのではないか。

【事務局】 調査の実施方法等については、全体会でも意見を聞きたい。

【高取部会長】 放課後子ども教室は学童のようなイメージがある。目的とニーズが一致しているのか気になる。子どもは大人たちとの交流を求めているのか。

【こども課】 放課後子ども教室も学童も居場所づくりという点では一緒だが、放課後子ども教室は、就労家庭ではなくてもすべての児童が対象となり、地域の人との触れ合いづくりの目的もある。また、学童は年間を通して毎日預ける場所だが、放課後子ども教室は月に数回の開催である。現在は、小学校に入る前の健康診断で周知しており、今後、4小学校から全校に広げたいと考えている。

【浅間委員】 預かり保育利用園児数が下がっている理由は。

【こども課】 第一に、年々幼稚園児数が70～100名程度減っているのも、分母が減っている。また、令和2年度は預かり保育料を値上げしたことも影響している。保育料については、保護者からの要望があって令和3年度から元に戻した。今年度は夏休み中の預かり保育も全園で実施するので、利用数は上がる予定である。幼稚園に通わせている保護者が子どもを預けたい時間は伸びているので、ニーズに応えるため対応を拡大していきたい。

【浅間委員】 子どもが増える地区と減る地区がある。地域差をどうフォローしていくかが課題である。

【こども課】 利用者数にも地域差があるので、人の配置も考える必要がある。

【浅間委員】 「子育て支援」分野の指標が「市直営拠点利用者数」となっている。地域によっては遠くて「みっきランド」や「はばたきみっき」に行けないところもある。複合型コミュニティなどのように、地域で細かくフォローするしくみが必要。特に福祉分野は地域で完結できることに對して支援をする方が望ましい。

【高取部会長】 全体を表す指標として、市直営拠点の利用者数は妥当なのか。

【子育て支援総合センター】 子育て支援拠点は直営以外にもあるので、指標は次期計画策定時に検討が必要だと思っている。地域でのしくみについては、スペースが狭いという問題などを耳にしている。現在は、みっきランドにて、地域で遊べる場所を紹介しているが、今後どういうやり方がいいのか、利用者に聞き取りもしながら考えていきたい。

【浅間委員】 新興住宅地は核家族化しており、お母さん同士のコミュニティも不足している。地域ごとに状況は違うので、それに合わせた政策が要る。

【高取部会長】 現在の指標は、把握しやすいから直営のみにしているように思う。市全体の指標であるので、民間も含めてもいいのではないか。地域間格差が出ないものがないと思う。

【こども課】 民間も補助をとるために数値をこども課に報告してくるので、数値だけであれば把握できる。

No. 221 学校教育

【高取部会長】 ICT機器を活用した教育効果の向上は、何をもって測るのか。

【教育指導課】 例えば小学校だと、45分の授業時間のうち、半分以上は聞く時間になっている。ICTを活用すれば、自分の思ったことをタブレットに書き込み、他の人の意見をすぐに見ることができるので、学びを深めることができる。今後、全国学力学習状況調査で、考える力についての調査があると思う。

【高取部会長】 コロナが落ち着いた時にICT機器が置き去りにならないか懸念している。便利ではあるが、対面でのディスカッションに上乘せして、ICTを活用することによって、いい教育効果が出るのかが具体的によく分からない。

【教育指導課】 グループワークを行う際、これまでだと決まったテーマに対してまずは自分の意見をノートに書き、その後一人ずつが意見を発表してグループで話

し合うため、かなりの時間を使っていた。それが、タブレットだと同時に意見を書き込めて意見を言える。一つ前に進んだ状態でディスカッションができるので、コロナが収束した後も思考力を高めることに活用していく。

【高取部会長】 タブレットは基本的に家に置いておくものなのか。

【教育指導課】 現在は、週末に持ち帰っている。家でドリルもできるし、先生がつくった課題を送ることもできるので、宿題もできる。

【高取部会長】 家と学校で頻繁に持ち帰りが必要だと、荷物も重くなる。ベースは家で使うものではないのか。

【教育指導課】 本来は学校で使うことが目的であったが、コロナで状況が変わった。コロナが心配で学校に来られない人も家で使うことができる。

【浅間委員】 コロナの前から計画があったということか。

【教育総務課】 タブレットについては前から計画があり、令和6年度までに配布する予定を、コロナの影響で前倒ししている。

【浅間委員】 「自分にはいいところがあると思う児童生徒の割合」が指標になっている意図はなにか。

【教育指導課】 生駒市では、学力等は全国平均よりも高くなっているが、「自分にはいいところがあると思う」の項目についてのみ全国より低くなっているため、上げる必要があると思い、指標に設定している。

【浅間委員】 これを挙げていくための具体的な手段としてはどういったことを考えているか。

【教育指導課】 子どもを認めてあげる環境づくりをお願いしている。

【浅間委員】 教育方針として、学力テストの数値や偏差値を目標にする考え方はないのか。

【教育指導課】 考えられなくはないが、もともと高いので、それ以上高くすることを目指すよりも、全国的に見て低くなっているところを上げていく考え方である。

【浅間委員】 学力が高い子もいれば低い子もいる。下のレベルをかき上げることが抜けているように聞こえるが、それはどうかと思う。

【教育指導課】 個別対応は進めているので、数値目標とするのではなく言葉で記載する。

【高取部会長】 5年後のまち自体が、学力がゴールにはなっていないが、「社会総がかり

で多角的な教育活動が進んでいる」ことを目指している。それに対して指標の自己有用感とはギャップがあるので検討してもらいたい。アンケート調査の市民実感度の値を信じて指標にした方がストレートかもしれない。

【村上委員】 コロナの影響で、学習に遅れが生じているのではないかと心配している。

【教育指導課】 地域交流など余裕のある教育はできなかったが、必要な時間は確保できている。

【高取部会長】 近年、プールが1シーズンに2回ほどしかないなど、子どもが泳げるチャンスがなくなっており、スイミングに通わせている親もいる。泳げない子が増えている印象がある。

【教育指導課】 コロナ禍で体育の授業が難しい現状にあり、先生も子どもたちの体力面を心配している。マスクをつけてマラソンをする訳にもいかず、やれる範囲でしかできないし、体力テストも行われていない。

【高取部会長】 施設（小中学校）の満足度が下がっているのはなぜか。

【教育総務課】 トイレはきれいになったが、校舎の老朽化は改善されておらず、見えるところが改修されていないためではないかと思う。

【浅間委員】 鹿ノ台では、2割以上が中学校で私学に進学している。生駒は学力が高いと言いながらそういうことが起こっており、それでいいのかと思う。

【教育総務課】 保護者の選択なのでなかなかどうすることもできない。

【藤尾委員】 アレルギー対応メニューができたことは良かった。アレルギーの人数も多くなっている。保護者の感想などはあるのか。

【教育総務課】 一定の評価はもらっているが、すべて対応できている訳ではなく、今は小学校のみとなっている。

No. 331 生涯学習・スポーツ

【藤尾委員】 生涯学習活動をした後、地域のボランティアをして身についたものを還元するというのが昔のコースだったが、今は自分たちが楽しむだけになっている。1グループあたりの人数も減ってきているので考えてもらいたい。人を育てる生涯学習になれば安心。コロナでグループを解散した話も聞き寂しい。現在の団体数は。

【生涯学習課】 自主学習グループは全体的に年齢層が高く、活動の継続が難しい団体も

あつて年々減少する傾向にある。現在の団体数は106。

【藤尾委員】 人を増やすところに力を入れてほしい。サマセミのようなPRの機会が増えればいいと思う。

【高取部会長】 現在、寿大学はどうなっているのか。

【生涯学習課】 8月末まで休止している。サマセミは今年も昨年と同様YouTubeでの動画配信を行う。昨年は15講座で配信当日に計1,200回余りの視聴があった。

【高取部会長】 YouTubeだと一方向の配信になるので、ウェビナーの方がいいかもしれない。

【生涯学習課】 コメントでの対応はできるようにする。

【藤尾委員】 図書館で朝に体操などを開催して、有効利用できているのは素晴らしいと思った。

【図書館】 朝活読得会は順次拡大していく予定で、今年も駅前図書館と北分館で企画している。

【高取部会長】 「図書館」分野の5年後のまちは、どちらかというところと交流の場としての役割に重きを置いているように感じるが、未来の図書館がどうあるべきか難しい。本のデジタル化が進んでいる中、図書館に行かなくても読むことはできる。デジタルとの融合が必要に思うが、今後どうあるべきと考えているか。

【図書館】 生駒市でも去年の10月から電子化を始めたが、日本の状況をみると、電子図書のうち約85%はコミックであり、また、著作権の関係からも無料で貸し借りできるものも少ない。図書館として、本を読んだ感動を分かち合う場、人を育てる機能は残ると思っている。

【高取部会長】 市の図書館として、読書が進むならデジタルでもいいという考え方なのか。それとも冊子としての本を重視しているのか。

【図書館】 個人的な見解だが、デジタルは障がいを持つ方にとって利用しやすい資料である。デザイナーは本に合わせてデザインする専門家なので、そこはデジタルでは受け止められない。書架の間で本を探すのもアナログの楽しみである。当分はハイブリッドが続くと思う。

【浅間委員】 図書館の利用者は増えているのか。また、年代別の利用状況は。

【図書館】 利用が増えているのは70代以上の男性で、子どもの利用は減っている。お母さん層の利用は30代から40代にスライドしており、出産の高齢化が影響していると感じる。

【浅間委員】 広さも必要だが、コミュニティの場として図書館を活用する考えは。

【図書館】 朝活読得会では、図書館でラジオ体操をしており、本に興味のない人にも親しんでもらう機会となっている。

【高取部会長】 図書館で色々なことをやるようになってきているのは素晴らしいが、本来の意義が薄くなっていないか。利用が増えているのが70代ということはデジタル化に対応できていない層ということである。子育て世代の絵本のニーズはあると思うが、他はみんなデジタルに流れている。まちの本屋もカフェと併設など、形態が変わってきている。

【浅間委員】 スマホ世代は活字を見ない。新聞をとっていない若い人も多く、今は図書館で調べものはしない。

【藤尾委員】 障がい者を含めてのスポーツイベントは盛り上がって、沢山人が集まったので良かった。取組の仕方で人は集まる。スポーツ推進委員をしているが、高齢化しており、指導員が不足している。日曜日だけ子どもにスポーツを教えるなど、若い世代の空いた時間を使ってボランティアになってもらえるようにすればいい。大学生でボランティアをすれば単位がもらえるなどの広げ方もいいと思う。

【高取部会長】 eスポーツはどのような扱いになるのか。

【スポーツ振興課】 スポーツかどうかの判断は難しいが、障がいを持っている方で興味がある人は多い。障がい者のスポーツを推進したいという想いがある。体育施設に来たこともない人がいるので、来てもらえるだけで前進である。野球やサッカーなどのスポーツゲームを選んだが参加者が少なかったという課題はある。

No. 332 歴史・文化振興

【藤尾委員】 昨年度、ふるさとミュージアムの活用が弱い旨発言したが、もっと外に出て出前講座などしてはどうかと思う。食文化を伝えられる人もいつまでもいないので、元気なうちに伝えていく取組をしてもらいたい。ここ10

年でそういった活動が止まっており、実体験としてできないのは大きな損失。一生のうちに1回でもいいので、吸収できる時にやってもらいたい。

【生涯学習課】 ふるさとミュージアムから小学校に出向き、昔のくらしや校区の歴史などについて出前授業を実施している。食文化の伝承についても今後やり方を考えていきたい。

【高取部会長】 「歴史・伝統文化」分野はどうしても高齢世代に偏り、5年後のまちな書いている幅広い世代に対するアプローチが難しい。YouTubeでの動画配信やSNSでの発信もいいと思う。

【生涯学習課】 デジタルミュージアムが市のホームページ上にあり、アクセス件数も伸びている。

【高取部会長】 それだとホームページを見にいかないとだめだが、YouTubeだと関連動画で出てくる。暗峠も若い人のインスタから火が付いたので、もっと取り上げてほしいと思う。ホームページは今あまり見ないので、時代に合わせて若い世代へのアプローチに取り組んでほしい。

【村上委員】 コロナ禍で教育が不足している部分もあり、ICTの活用だけ進んで気持ちが入ってこないという心配もある。もっと子どもたちが地域の色んな人と関わってもらい、顔の見える関係で土地のいわれを伝えていってもらいたい。

No. 222 青少年

【浅間委員】 情操教育は家庭の役割だと思っている。文句を学校に言いに行く人も多いが、家庭での教育をどうしていくかは考えなければならない。

【生涯学習課】 保護者へのアプローチは長年の課題である。市としては家庭教育支援チームを立ち上げており、活動エリアを少しずつ広げていきたいと思っている。子育て等への不安感を少しでも解消できるように、まずはイベント等で顔を合わせて相談相手を見つけるなどのつながりをつくってもらえたらと考えている。

【浅間委員】 理屈は分かるが、イベントには毎回同じ人が集まるのが課題。共通目的に向かって同じ目線で進んでいく活動はいいと思う。

【藤尾委員】 子ども会が消滅していっているのは、役をしたくないという原因だけで

はないと思う。壱分小学校区でお母さんたちの考え方を聞く集まりを計画
中であるが、本当に求めていることは何か、内容を見直さないとならない。
青年団活動もなくなり、婦人会活動もほぼゼロになった。老人会も次の担
い手がいない。

【高取部会長】 子ども会については、よその子に関わる抵抗感が根本になるのではない
か。

【浅間委員】 自治会役員でも家を知られたくないからと名前だけになっている人もい
る。よそのことに関りたくない若い人が増えている。どこまでがプライバシー
なのかとを感じる。

【高取部会長】 「健全育成」分野も「自立支援」分野も、表現として5年後のまちに記
載されていることのハードルが高すぎないか。ユースネットいこまの相談
内容に変化はあるのか。

【生涯学習課】 ニートやひきこもりについての相談支援を行っているが、家庭内での課
題が背景にあるケースも増えていると感じており、本人だけでなく家族も
含めたケアが必要な場面が増えている。20代の相談が一番多いが、たま
に50代の相談もある。ひきこもりが長期化するケースもあるが、経済的
なことも含めてご自身が困っているという認識がないとどこにも相談され
ない現状もあり、掘り起こしの難しさも感じているところである。

【高取部会長】 指標として、相談者数が多ければいいのか、という話もある。相談内容
も多岐に渡るため、カテゴリーでターゲットを絞り込んでもいいのではな
いか。

【事務局】 (庶務連絡、閉会宣告)

— 了 —